

今金町生涯学習情報誌 いまナビ

～学びの“今”をナビゲートする～

平成三十年
三月一六日
第8号

発行日：平成 30 年 3 月 16 日
発行：今金町教育委員会
編集：社会教育グループ
〒049-4393
瀬棚郡今金町字今金 48 番地の 1
TEL. 0137-82-3488
FAX. 0137-82-3445

「今金町生涯学習情報誌いまナビ」は毎月の広報紙「広報いまかね」では掲載しきれない教育関係の記事をはじめ、所属団体の活動情報、教育関係委員のコラムを掲載し、町民の皆様には教育関係事業の情報をお知らせするものです。年 4 回、町内全世帯向けに発行しています。どうぞご覧ください。

4月1日 ピリカ旧石器文化館リニューアルオープン! 入館料無料!!

現在改修中のピリカ旧石器文化館は 4 月 1 日（日）にリニューアルオープンを迎えます。今回の改修は「誰にでもわかりやすく、親しみやすい」を第一に、近年の研究成果を盛り込みつつ、タッチパネルによる学習コーナーや音声ガイド、子ども向けの触って学べるコーナー、記念写真撮影ボックス等が新しく整備されます。

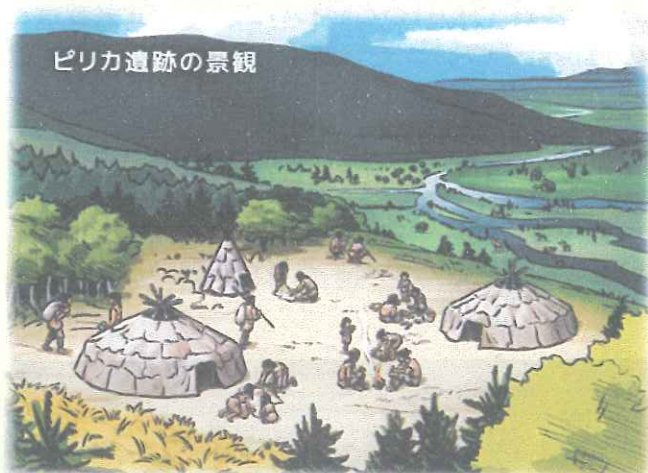
展示パネルの目玉としては、しばしばわかりづらいと言われる旧石器時代の人々の暮らしについて、専門的な観点から復元イラストを提示した点です（下図）。ピリカ遺跡を北東方面から望むこの図には、利別川流域を大型動物が

行き来し、良質な石材を持ち込んで狩猟具を作る人の姿等を描き、このほかにも季節的に移動するシーンや石材採取のシーンも再現しています。また、近年世界遺産登録の動きで注目を集める「縄文文化」との違いや、激しい環境変動を乗り越えた旧石器人の文化適応にスポットを当てたパネル、来館者から質問されることの多いアイヌの人々との関係や北海道独自の歴史の歩みを解説するパネル等も整備しました。

大型スクリーンを活用したタッチパネルの学習コーナーでは、旧石器文化を詳しく学べる 7 つのコンテンツでピリカ遺跡をより身近に感じられるようになっています。また、触って学べるハンズオンのコーナーには、重要文化財の石器を実物大に複製した接合パズルや地層のコーナーなど、ピリカ遺跡ならではのものとなっています。

今回の展示改修と開館 15 周年を記念し、**試行として 4 月から入館料を 1 年間無料**とすることとしました。この機会にぜひ多くの町民の皆様にお越しいただき、さらに周囲の方々への周知・宣伝もしていただけますと幸いです。また、各種団体の皆様には、研修の一環でご活用くださいますよう併せて宜しくお願いたします。（宮本）

※定休日は毎週月曜日、開館時間は 9:30～16:30
※詳しくは史跡ピリカ遺跡 HP・facebook 参照



▲復元イラストの一つ「ピリカ遺跡の風景と暮らし」

今後の主な行事

		会場
4月15日(日)	今金町スポーツ少年団本部 体カテスト会・結団式・スポーツ見学会	総合体育館
4月22日(日)	図書室おはなし会（子ども読書の日事業/イマカレ）	町民センター
5月20日(日)	今金オリエンテーション	町内一円

※詳細はチラシ等で随時お知らせいたします。日程等変更になる場合があります。

■今金わくわくカレッジ “イマカレ”

今金町では、子どもたちの土曜・休日の教育環境をより豊かなものにするため、地域の様々な人材・団体の協力のもと土曜・休日に継続的なプログラムを提供する「土曜日の教育活動推進プランモデル事業 今金わくわくカレッジ “イマカレ”」を実施しています。

今金小学校・種川小学校・今金中学校の3校の児童生徒を対象とし、外国語活動・スポーツ活動・読書活動などの教育プログラムを通年で

実施しています。平成29年度は計8回実施し、小学生は累積4回、中学生は3回の参加で図書カードをプレゼントしました。中には8回すべての事業に参加してくれた小学生もいました！今年度もたくさんのご参加ありがとうございました！

平成30年度も実施いたしますので、小中学生のみなさんはぜひ参加してくださいね♪

(齋藤)



▲パステルアート教室の様子(4/22)



▲ドリームバスツアーの様子(8/2~8/4)



▲えいごキッズくらすの様子(1/16)

コラム キャリア教育って何？

教育委員会 ^{なが}永 ^い井 ^{あきら}章 委員

皆さん、「キャリア教育」って何だと思いませんか？キャリア官僚やキャリアウーマンなど仕事に関係することなのではないでしょうか？普通は能力・技能などと思いがちですね。でも、教育の現場ではちょっと意味が違って来ようです。ではキャリア教育、特に「キャリア」について深く考えてみたいと思います。文部科学省は「キャリア」について以下のように説明しています。

「自分とは何なのか」ということでしょうか？そして、子どもたちの成長をどう思うのか？どんな大人になり、どんな仕事をするか？

自ら考え行動できるように、子どもたちの各

年齢期での様々な体験、学習等がキャリア教育にはとても大切になっていくと思います。

そして「キャリア教育」は学校教育において行われると思われそうですが、社会教育との連携でよりいっそう効果を発揮できるのではないかと思います。

小さな町・今金町だからこそできることを、この平成30年度から「キャリア教育」について皆さんと一緒にいろいろと考えを深めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

つづく



文部科学省「キャリア教育とは何か」より引用

- キャリア教育の定義…一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育。
- キャリア発達とは……社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。
- キャリアとは……人は他者や社会との関わりの中で職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。

(中略)

人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねが「キャリア」の意味するところである。

■「こどもかるた教室」・「こどもかるた交流会」にぎやかに開催!

1月10～12日の3日間、総合体育館武道場でこどもかるた教室、13日にこどもかるた交流会が開催されました(今金町子ども会連合会主催)。

こどもかるた教室では、3日間の平均が約40名と多く子どもたちが参加し、初心者もたくさん札を取れるようになりました。この教室で学んだことを13日の交流会で活かし、大人顔負けの白熱した戦いになりました。その後、体育館アリーナに移動して「北海道弁大型かるた」をチーム戦で行いました。忙しく走りながらも、笑顔がたくさん見られました。今回は「いまかね冬リンピック」のメニューを取り入れ、認定こども園いまかねのグラウンドをお借りし、「雪上5色綱引き」を行いました。こちらチーム戦で、懸命に綱

を引っ張っていました。足元は雪なので、足をとられ転んでしまう子がたくさんいましたが、大きなケガ等なく無事に終えることができました。

昼食は老人福祉センターで餅つきを行い、女性団体の方々が作ってくださったお雑煮や、参加者みんなで作ったきな粉餅とあんこ餅をいただきました。昼食中も女性団体の方々とお話し、より一層交流を深めることができました。

今年は例年とは少し違った交流会でしたが、参加してくれた子どもたちにとっていい思い出、いい交流になったのではないのでしょうか。

4日間にわたる「こどもかるた教室」と「交流会」にご参加、ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。(民谷)



▲かるた交流の様子



▲5色綱引きの様子



▲全員で記念写真

■120年記念『いまかね学検定公式問題集』発行事業のお知らせ

『ほっかいどう学検定』や『はこだて学検定』と同じように、今金町のことをクイズ方式で楽しみながら学べるものがあるといいですね。

そんな話が会の中で盛り上がり、たまたま120年記念事業の募集があったのでこの企画を提案してみたところ、何と採択されてしまいました。採択は良かったのですが、いざ問題集を作るとなると初めての事でわからないことだらけ。しかし我が会には優秀な人材がいました。『ほっかいどう学検定』全問制覇者の秋山道子あきやまみちこさんがおおまかな問題案をつくってくれ、渡辺勝博わたなべかつひろさんは現場を細やかに回って確認をして下さいました。農業のことなら竹内勝一たけうちかついちさんと吉田清志よしだきよしさん、商業のことなら小川ひとみおがわひとみさん、教育・文化財関係は宮本学芸員みやもとまなぶさんと色々な方々にご協力をいただき、何とか100問が出来上がりました。

町の開拓史をはじめ地名の由来や基幹産業、特

今金町歴史をたどる会会長 ましもとよしじ 岸本義仁

微的な自然、町の象徴、人物、イベントなど多彩な分野からなる問題集で、3月末に発行予定です。来春以降、この中から無作為に抽出した検定試験を定期的に行う予定です。成績優秀者には称号を差上げます。

120年どころか2万年前の旧石器時代から歴史のある今金町。町なかで何気なく目にしているものでも、その由来を知ればまた違って見えるはずです。この問題集を通して今金町をもっと身近に感じ、愛着をもってもらえればこれに勝る喜びはありません。

※問題集や検定試験など詳細については、改めて広報誌等でご案内いたします。



▲常代の松

社会教育委員だより 〈社教委員のつぶやき〉

社会教育委員によるコラムリレーを掲載しています!

〈今金町社会教育委員会〉

委員長	天沼 寧	委員	業天 誉久
委員	坂本 孝子	委員	渡邊 昌子
委員	松原 真一	委員	辻 浩一
委員	山崎 周一		

全国社会教育研究大会北海道大会に参加して

委員 ^{まつ}松 ^{はら}原 ^{しん}真 ^{いち}一 (校長)



9月11日～12日に札幌コンベンションセンターで全国社会教育研究大会が開催され、参加しました。本町社会教育委員長 ^{あまぬまやすし}天沼寧氏が江差追分の尺八を努めたアトラクションから始まり、記念講演、パネルディスカッション、分科会などが行われました。

植松電機 ^{うえまつとむ}の植松努社長の記念講演では「思うは招く」という母からの言葉を大切に自分の夢に向かって活動されていることを話されました。特に本を読むことで、過去の経験を学ぶことができる。人と繋がることで知恵を学び、勇気をいただく。考えを試すことで個性が生まれる。働くことの意義は「人に役に立つ」事であると捉えると、いろいろな仕事生まれる。そのような話に共感しました。

これから先、社会はロボット化が進み、10年後には仕事の4割がなくなると言われています。しかし、世界はロボットに負けない人を求めています。やったことのないことをやりたがる人、あきらめない人、工夫をする人が求められているのだと思います。今金町は本物に触れる機会が多くあり、人とのつながりや活動を大切にしている町です。講演を聴き、これからロボットに負けない人材がこの町で育っていくような気がしました。

春を迎えて

委員 ^{まか}坂 ^{もと}本 ^{たか}孝 ^こ子 (自営業)



北国の暮らしは冬が厳しい分、春の訪れが心待ちで嬉しいものですね。

平昌五輪では選手ひとり一人が織りなす物語と共に活躍してくれました。スポーツ・文化は、国境を越え感動を与えてくれる平和への架け橋と思っています。

数年前、超満員の某講座に参加してみました。講座の内容は、高齢者トラブル、生前整理、老後の住居、相続、葬儀、墓、等々。初級、中級、上級と試験があり、運よくスイスイと進み、その後何に使うでもなくいましたが、あの時の会場の熱気を改めて考えてみました。

平均寿命がドンドン延び、団塊の世代が75歳となる今、昨年12月末時点で国の借金が1085兆7537億円を抱え(今年元旦時点の人口推計1億2659万人を基に計算すると、国民一人当たり857万円の借金)社会保障費の膨らみが問題になっています。

団塊の世代から言わせてもらえば、昨日今日生まれた訳でもなく、年齢別人口など半世紀前からご存知のはずと思いますが、講座の盛況ぶりはそんな社会への不安が老後の賢い暮らし方を求め、学びに繋がったとも思えます。不安のない社会にと願いながらも、不安が学びの引金ともなりうるようです。

昨年、思わぬことで長期入院となり、この講座内容が現実味を帯びてきました。いくつになっても、新しい情報や勇気や元気をもらえる学びは、希望につながっていくように思えます。新しい春を迎えて、日ごろお世話頂く皆様への感謝の気持ちを心に、文庫活動を再開し、学びあいから心豊かにと願っています。

